

斷心がけらるべく候。猶各たのみ入計候。穴賢く。

四月三日

教 如在判

能州(羽咋)はこの郡

惣 中

【本誓寺文書】 鳳至郡

一六五八

急度取向候。當寺信長一和之儀すでに相調候。さ候へば、彼方表裏眼前候。就其、予當寺可相拘おもひたち候。然者聖人之號門弟輩者、此度盡粉骨を馳走候はゞ、佛法再興聖人に可爲報謝候。されば安心決心候て、稱名念佛無油斷心にかけらるべく候。猶各たのみ入計候。穴賢々々。

卯月三日

教 如在判

能州(鳳至)ふけいの郡

惣 中

【本誓寺文書】

一六五九

當寺御拘様之儀ニ付、從(教如)新門主様被成下御書候。各有

頂戴、如御詫御嗜肝要候。仍此表之御様躰、舊冬爲寂慮(天坂)

天下無事被仰出、去三月上旬勅使御兩所有御下向、御一(能田・勸修寺)

和大方相調、御寺内可被明渡之段候之處、新御門主様

其始末且以無御屈付而被驚入、俄被立思召候。誠蓮如

上人已來御開山之御座所を、法敵に被渡置、馬蹄ニけが

さん事、御無念之由被仰出、先當分被成御拘禁裏、信長

先達而有御訖言、自然於無同心者、可被居御覺悟由

候條、別而御門下衆御馳走此節候。隨而安心之一儀、即被

露御書候條、幾度も御聽聞候而、眞俗共以其御心懸專用

候。猶此仁可被申候。恐々謹言。

卯月四日

證(慈敬寺) 誓 在判

能州(鳳至)ふげし郡惣中

教 行 寺

慈 敬 寺

ふげし郡

證 誓

惣 中

○

【妙嚴寺文書】 珠洲郡

一六六〇

急度取向候。當寺信長一和之儀、すでに相調候。さ候へば、彼方表裏眼前候。就其、予當寺可相拘おもひたち候。然ば聖人之號門弟輩は、此度盡粉骨を馳走候はゞ、佛法再興聖人に可爲報謝候。されば安心決定候て、稱名念佛無油斷心にかけらるべく候。猶各たのみ入計候。穴賢々々。

卯月三日

教 如在判

能州(珠洲)すどの郡

惣 中

四月八日。長連龍、鹿島郡笠師村に制札を與ふ。

【萬治以前之拔書舊記】

一六六一

制 札

一、盜妨人取停止之事。

一、放火すべからざる事。

一、竹木伐取べからざる事

右此旨於違犯者、堅可加成敗者也。

天正八年

卯月八日

連(長) 龍 在判

かさし(笠師)村番頭どの、

四月十五日。本願寺顯如、能登の門徒に、その織田信長と媾和したる次第を報す。

【法融寺文書】 珠洲郡

一六六一

態染筆候。仍信長公与和平之儀、爲禁裏被仰出、互之旨趣種々及其沙汰候キ。彼憤大坂退出之儀に相極候間、此段新門主令直談候。其後禁裏へ進上之墨付にも、令加判形候。此和平之儀者、大坂并出城所々、其外兵庫・尼崎之拘様、兵糧玉藥以下、此已來之儀不及了簡候。中國衆之儀、岩屋・兵庫・尼崎引退歸國候。今は宇喜多別心候條、海陸之行不可相叶由候。たとへば當年中之儀者可相拘歟。乍去敵多人數取詰、長陣以後者、扱之儀も不可成候。然

時は有岡・三木同前に可成行事眼前候。忽開山尊像をはじめ、悉相果候はゞ、可爲法流斷絶事欺入計候。就其加思案、寂慮之御請申候。如此相濟候以後、新門主不慮之